

# PAD における SPP の役割

(医) 心施会 府中腎クリニック<sup>1)</sup>、八王子東町クリニック<sup>2)</sup>、南大沢パオレ腎クリニック<sup>3)</sup>

○杉崎健太郎<sup>1)</sup>、小杉繁<sup>1)</sup>、小俣百世<sup>2)</sup>、岩本八千代<sup>3)</sup>、杉崎弘章<sup>1,2)</sup>

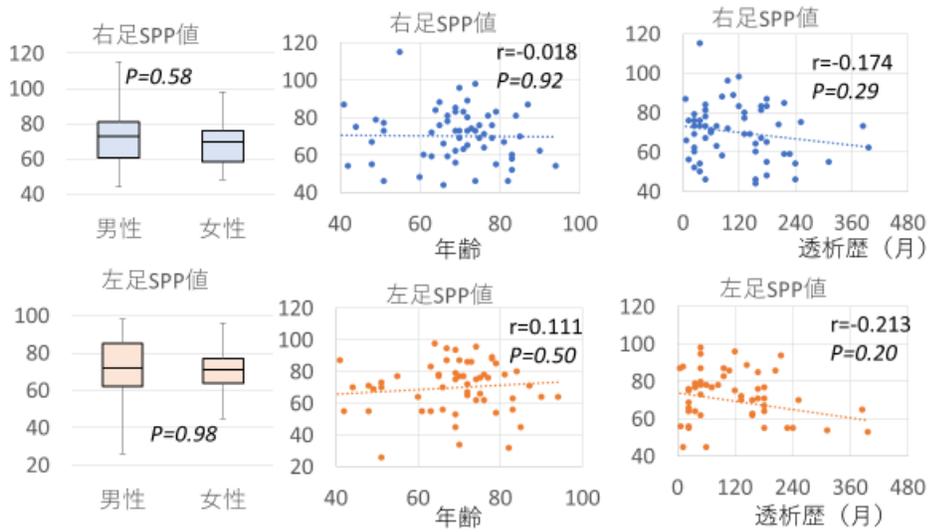
抄録：

【背景】透析患者における末梢動脈疾患（PAD）の早期病変は有症状が少なく、放置され重症化すると生命予後が非常に悪いことが知られている。従来 ABI では透析患者に多い血管石灰化によって高値になるため見過ごされ易く、皮膚還流圧（SPP）は石灰化の影響を受けにくいとされている。透析患者の PAD 早期発見を目指して、当グループではフットケアの一つとして SPP を導入している。【方法】当院通院中透析患者で ABI・SPP の左右両方をチェックできた 60 名の患者を対象とし、ABI 0.9 以下、SPP 50 以下をカットオフ値とし、Fontaine 分類による重症度分類を行った。【結果】ABI・SPP には正の相関関係（右下肢：R=0.42, 左下肢：R= 0.54）が認められ、両下肢どちらかの ABI・SPP 共に陽性であった患者は 6 名、ABI のみ陽性が 4 名、SPP のみ陽性が 3 名であった。有症状の患者は 13 名中 Fontaine 分類 I 度 2 名、II 度 4 名、III 度 1 名、IV 度 0 名であった。ABI 単独陽性患者は全て有症状であり、SPP 単独陽性患者は全て無症状であった。【考察】PAD 管理は多職種による患者への関わりが重要である。今後も積極的に SPP を用いて PAD 管理に取り組んでいきたい。

Table 1.

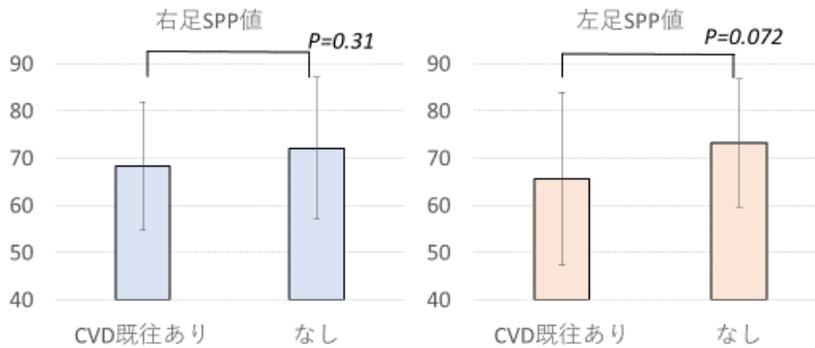
Baseline characteristic	N=60 (120 肢)
年齢	68.6±12.63
性別（男性、%）	34 名（56.7%）
透析歴（ヶ月）	119.6±101.7
糖尿病あり（%）	22 名（36.7%）
CVD 既往あり（%）	28 名（46.7%）
SPP 値（右、左）	右 70.0±14.0、左 69.7±16.3

## 【結果1】 性別・年齢・透析歴とSPP値



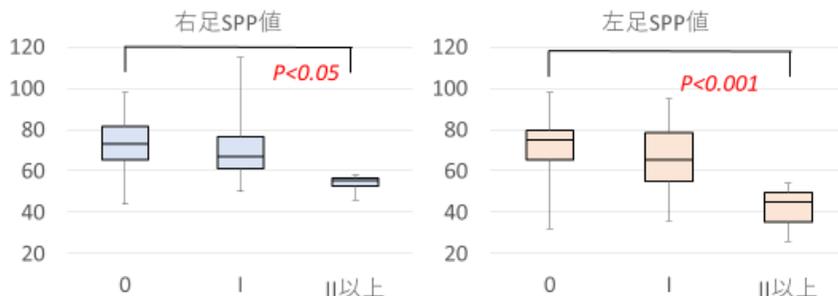
- 性別・年齢・透析歴はSPP値と関連はなかった。

## 【結果2】 CVD既往の有無



- 左右ともに、CVDの既往がない群でSPP値が高い傾向にあったが、有意差は認められなかった。

## 【結果3】 SPP値とFontaine分類



- 性別・年齢・透析歴に統計学的な差は認めない。
- ABI単独陽性は全て有症状であり、SPP単独陽性は症状が軽度が多い。
- Fontaine分類が進むほど、SPP値は左右ともに有意に低下した。

糖尿病の有無によって、SPP 値と ABI の関連で違いが認められた。(Fig.4 は略)

結果のまとめ：

- ① 性別・年齢・透析歴は SPP 値と有意な相関関係は認められなかった。CVD 既往のない群では SPP 値が高い傾向は見られたが、有意差はなかった。
- ② ABI 単独陽性ではすべて有症状であり、SPP 単独陽性は症状（Fontaine 分類）が軽度であった。
- ③ Fontaine 分類で進行した群においては、SPP 値は有意に低下した。

考察：

- ① SPP 値の測定時間が透析前・中・後で変化することが以前の報告でなされている。本研究においては、HD 中に SPP 値の測定を行ったため、結果に影響した可能性がある。
- ② ABI と SPP 値は比較的強い相関関係を有し、糖尿病の有無によってより強い相関関係を示しており、糖尿病による石灰化が影響している可能性が考えられた。

結語：

PAD は多職種による患者への関わりが重要であり、SPP は共有するデータとして有用である。